



惹かれる
見つめる
ともに歩く



アジア・アフリカ

フィールドワークの現在

■会場: 京都大学百周年時計台記念館1階 京大サロン
■期間: 2009年12月1日(火)~18日(金)
9:00~21:00 【入場無料】

問い合わせ先: アジア・アフリカ地域研究研究科

大学院教育改革支援プログラム支援室

URL: <http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/>

E-mail: kaikaku@asafas.kyoto-u.ac.jp 電話: (075)753-9637

この写真展は、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(ASAFAS)が2008年度から取り組んでいる大学院教育改革支援プログラムのなかの「院生発案共同研究」に採択された院生が中心になって開催します。「院生発案共同研究」では、ASAFASに在籍する院生が、アジアやアフリカの諸地域を横断してグループをつくり、共通のテーマを設定して比較研究を行い、海外で報告会を企画・開催したり、広域調査を実施したりします。2008年度は4つのグループが活動をおこないました。今回の写真展では、グループ内でのディスカッションや海外での報告会を通じて得た新たな知見や、研究対象のユニークな点を、それぞれの院生が写真を通じて表現します。また、各グループの執筆・編集による、カラー写真をふんだんに掲載した共同研究報告書も閲覧できます。長期間のフィールドワークを経験したASAFAS院生の眼からみた、「アジアやアフリカの現在」を感じ取っていただくと幸いです。

【関連企画】

写真展参加者による報告会、「第1回ASAFAS Graduate Student Conference」(12月2日[水]13:30~17:30)も開催。こちらもふるって御参加ください。



会場 稲盛財団記念館3階大会議室
(京阪 神宮丸太町駅から北へ徒歩4分)

ケアをめぐる実践

戸田美佳子・中村沙絵・吉村千恵

この共同研究は、アジアやアフリカにおける障害者や高齢者のケアをめぐる実践を理解することをめざしました。カメルーン、スリランカ、タイをフィールドにして障害者や高齢者のケアをめぐる実践を調査してきた3名が取り組みました。

大衆芸能からみる都市的世界

大門碧・飯田玲子

第三世界の都市と言え、経済格差、治安の悪さなど問題ばかりが目立ちます。しかし、飛びかう人、物、情報に左右されながらも、人びとは生活しています。かれらの活動を詳細に見たい、これが私たちの研究の動機です。そのなかでも、インド、ウガンダの大衆芸能に注目します。芸能の内容は社会が求めるものを示し、創作現場では人と人の関係性が見えてくるはず。大衆芸能から都市を見つめると、人びとの息づかいがもっと近くで聞こえてくる気がしているのです。

東南アジア島嶼部における住民と生態資源のかかわりの現在

加川真美・鈴木遥・古川文美子

海と森に囲まれた東南アジア島嶼部には、さまざまな生態資源がみられます。その中には、エビやマンゴー、南洋材などのように、日本に暮らす私達が日々その恩恵を受けているものもあります。本研究では、このような生態資源が誰の手によってつくられているのか、彼らの暮らす地域がどのような状況にあるのかを明らかにし、生態資源の利用・生産の特徴、生態資源からみた当該地域の地域特性について考察を行いました。

アフリカにおけるイネ科作物の多様性と土地利用の変遷に関する比較研究

片山祐美子・山本佳奈

アフリカの各地域におけるイネ科作物をめぐる人々の実践について理解することをめざしました。ガンビアとタンザニアにおいて、アフリカのイネ科作物とそれをめぐる栽培や土地の利用に着目して調査を続けてきた2名が取りくみました。